

るので、その現状について記録しておく。オニバスは1976年の調査時には今池 (No.2)、日高沢池 (13)、石池 (22)、夫婦池 (23) の4つの池で確認されていた。その内夫婦池 (No.23) は埋め立てにより池自体が消滅し、今池 (No.2) も池の水が完全に抜かれ、宅地予定地として看板が立てられていた (1992年には水が入られウキクサ科4種を確認)。日高沢池は1991年には見られなかったものの1992年には池の半分近くを覆っていた。また日高沢池と水路でつながっている新池 (14) は1991、'92年とも数個体を確認することができた。石池は1991年には数個体見られたものの、1992年には1個体も確認できなかった。

丘陵地のため池 (No.49-63)

この地域は宅地の造成 (泉北ニュータウン) により水のきれいなため池が少なくなってきた。この地域の水草の出現種数は1976年には5.8種であり、平地のため池よりも明らかに水草の豊富な池が多かったが、現在は2.0

種で丘陵地のため池の種の消滅が激しいことがわかる。特にNo.52の池は1976年の調査時にジュンサイやヒツジグサなど12種の水草が生育していたが、現在ではヒシしか生育しない池に変わってしまった。その他のため池でも沈水植物を中心に多くの水草が姿を消している。消滅した種はクロモ、イトモ、トリゲモ、ジュンサイ、ヒツジグサ、マツモの6種である (フトヒルムシロとウキシバについては1976年の調査時に見られた池を調査できなかったため現状は不明である)。これらの種は堺市から消滅してしまった可能性がある。この地域のため池は近い将来、No.52の池のようにヒシ類のみの池になってしまうのだろうか。

引用文献

- 堺植物同好会, 1976. 堺の植物 2:32-49
植村修二, 1983. 大阪府堺市におけるウキクサ科植物の分布. 水草研究会報 11:7-9

空知郡南幌町の水生植物数種

外山雅寛

1992年9月26日、苫小牧の湿原踏査の帰路のことである。普段はほとんど通ることのない長沼町を經由して南幌町へ入ったところ、近年できたという南幌温泉付近に湿地帯の跡があったのでのそいで見ることにした。川が近いので、土質は重粘土である。

確認できた植物はミズアオイ・ヘラオモダカ・フトイ・カヤツリグサ科 sp. の4種である。周辺部の様子を見ると、かなり重機が入った跡があり広面積が荒地となっている。南幌町といえば、かつては相当沢山の湿地があった地域であるが、現在は見渡す限りの美田が広がっていて、荒れ地に残されたわずかばかりの湿地も埋立てられる運命にある。

不明植物1種のみを採集し、角野先生へ送付したところ、カヤツリグサ科マルホハリイと同定された。北海道には比較的少ない植物と思われる。

同定をしていただいた角野先生には厚く御礼申し上げます。

山口県柳井市に再びシチトウ

南 敦

山口県のシチトウ *Cyperus monophyllus* Vohl は20年以上前に2か所記録されていたが、その後、開発等により不明になっていた。1992, 9. 22, 柳井市で再び見出ししたので報告する。柳井市での場所は次のとおり。1992-ゼンリン住宅地図「柳井」p106, F-2.5 柳井市古開作、浜本政男氏倉庫南側の溝 (幅1m) の縁、溝西側に長さ5m。生育はきわめてよい。近所に聞いたところでは昔からあったという。